



伊豆沼・内沼はオナガガモの渡りの中継地になっていて、春と秋に大きな群れがあらわれます。写真のような大きな群れが見られると春が近いことを感じます。

Vol.129
令和2年度3月号

伊豆沼・内沼自然体験講座

第5回伊豆沼・内沼自然体験講座「ガンの飛び立ち観察会&沼歩き探鳥会」が1月9日に行われ、県内外から13名が参加しました。

当日の朝の気温は-14℃と非常に寒く、伊豆沼・内沼も凍っている状態でした。日が出て飛立たずにじっとしているマガンが多く、一斉に飛び立つ様子は観察できませんでしたが、頭上を通過するマガンを間近で観察することができました。

後半の探鳥会では、内沼でオナガガモ、オオハクチョウ、ミコアイサなどを観察。さらに、凍った沼の上で食事をするオジロワシの姿も見ることができました。また、帰り道では田んぼでエサを探すハクガンの家族を発見するなど、たくさんの渡り鳥に出会うことができました。



なかなか飛立たないマガンたち。



早くマガン飛立たないかなー



頭上を飛ぶマガン。
お腹の黒い模様は成鳥の特徴。



内沼でオナガガモを観察。

希少ガン類シンポジウムがオンラインで開催



マガンに較べると数はずっと少ないのですが、ガン類には、カリガネ、ハクガン、シジュウカラガン、コクガンなど近年、数が増えている希少なガン類がいます。1月30日にこれらのガン類の現状をまとめた「希少ガン類シンポジウム」がオンラインで開催され、最大170の方が視聴されました。財団からは研究室長の嶋田がコクガンについて発表しました。

志津川湾コクガン捕獲&GPS装着調査

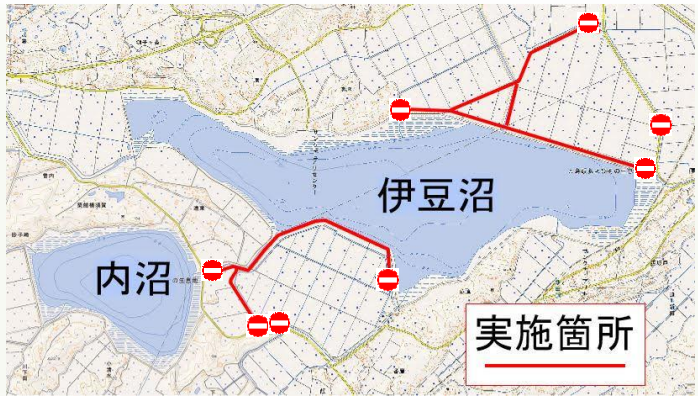
南三陸ネイチャーセンター友の会との共同研究で、1月下旬に志津川湾で「コクガンの捕獲&GPS装着調査」を実施し、コクガンの家族4羽に標識とGPSを装着することに成功しました。親は繁殖地に戻るため、繁殖地が特定できる可能性が高いほか、子別れがいつ起きるかなど、家族間のつながりも明らかにできるかもしれません。



コクガンの現在位置が解ると、色々なことが解ってくるんですねー。



野火による一斉清掃にご協力下さい



日時 3月6日(土) 8:00~12:00
悪天候の場合は、3月13日(土)に順延
場所 伊豆沼第2・第3工区堤防敷き



里地にある伊豆沼・内沼らしい自然環境の復元と湿地保全のための野火(枯れ草の焼却)を実施します。

火災と間違えないようお願いします。

第61回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン開催します

今年度はコロナ感染予防のため、**事前参加申込が必要**となります。多くの皆様方の参加をお願いします。

- ◎マスクの着用を忘れずにお願いします。
- ◎発熱や風邪症状等がある場合、参加をご遠慮ください。

日時 3月20日(土) 小雨決行
雨天の場合は、3月27日(土)に順延
開会8:30 閉会10:30
集合場所 鳥館、昆虫館、淡水魚館



伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～アカヒレタビラ～



アカヒレタビラは、主に平野の用水路や湖沼に生息するタナゴの仲間です。初夏にはオスに婚姻色が現れ、腹ビレや尻ビレの先が赤色や白色を帯び、体の側面が緑色に染まるなど、普段の地味な姿とは違う美しい姿に変化します。

タナゴの仲間は、淡水に生息する二枚貝に産卵する生態を持ち、タナゴの仔魚は貝に守られて成長します。しかし、淡水の二枚貝が減少したため、タナゴの仲間も数を減らしています。アカヒレタビラも例外ではなく、絶滅が危惧されています。地域固有のアカヒレタビラとその生息地が、いつまでも存続することを願ってやみません。

